

2020年度 久留米信愛中学校・高等学校 学校自己評価表

2020年度、本校は以下のような目標・方針・計画をもとに、教育活動をおこないます。

※評価はA・B・C・Dの4段階で行います。

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする教育理念の上に立ち、生徒の全人格的陶冶を目指す。 生徒一人ひとりが主体性を確立し、おのおのの可能性を最大限に開発して、絶えず自分を越えて学ぶ姿勢を生涯持ち続けることのできる自己形成力を養う。 人間社会の多様性を理解し、とりわけ弱い立場に置かれた人を大切にす豊かな心を持ち、社会に秩序と平和をもたらす慈愛、信頼、寛容、感謝、協力の精神を育む。	総合評価
年度目標	創立60周年を迎え、信愛教育の原点に立ち返り、カトリック精神の基盤を固め直し、生徒一人ひとりと向き合う時間を大切にする。 その上で、個々の生徒に対して、現代的に求められる能力を開発し、他者に生かす自己の形成を促し、多様性の受容と協働性の養成による社会貢献の姿勢を培う。	B

No. 1

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
宗教教育	○キリスト教カトリック精神に基づく信愛教育の推進	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、美しい姿勢を保つこと、沈黙のうちに自己と向き合うことを習慣化させる指導をする。	A	A	A
生徒指導	○基本的生活習慣と規範意識の確立 ○主体性と協働性の伸長 ○校内美化の推進	学年・教科と連携し、登下校時、授業の開始・終了の元気な挨拶を指導する。	B	B	B
		生徒会活動をはじめ、生徒が企画運営する教育活動が、生徒の主体性や統率力、協働性を育む場になるよう、支援を行う。	B	A	
		清掃時間は、エプロン着用の徹底・無言清掃・丁寧な清掃を実践させる取り組みを行う。	A	B	
教科指導	○自律学習の定着 ○正確で柔軟な業務遂行 ○ICT教育の推進	「ステラ手帳」の活用や「家庭学習リサーチ」の結果を活かした効果的な指導を促進する。	B	B	B
		新学習指導要領への移行準備、新テスト制度への対策を進める。	B	B	
		ICTを活用した授業や校務のための環境整備を進める。	B	B	
進路指導	○キャリア教育と受験指導の徹底 ○生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	進路シラバスに沿った、流れを持ったキャリア教育の実施とライフプラン（未来）を描き、その可能性を拓いていくためのキャリア教育を実施する。	B	B	B
		先生方や生徒・保護者が活用しやすい「進路のてびき」「合格のてびき」の作成とガイダンスを実施する。	B	B	
保健衛生・教育支援	○担任・学年との連携ある教育支援活動の実施 ○相談活動の充実	新年度に申し送りができるように、各学年担当者と定期的な情報交換を確実に進行。	B	A	A
		学校医及びスクールカウンセラーによる定期的な相談活動を実施し、相談体制を充実させる。	A	A	
国際教育	○グローバル人材育成のための教科横断型プログラムの企画運営 ○海外難関大学進学を視野に入れた一貫教育の推進 ○国際交流プログラムの企画運営とその関連活動の支援	教務部（教科学習指導関連）や進路指導部と連携し、グローバル課題やSDGsをテーマに課題探究型教育活動を企画し、実施する。	A	A	A
		英語科と連携し、6カ年を通じて実践的英語学習の動機付けと錬成のための研修を企画する。	A	A	
		英語科と連携し、実践的英語学習の動機付けと実行を支援する。特に、4技能英語検定試験（英検・GTEC等）の受験を奨励し、ICTを活用した対策を支援する。	A	B	
研修	○授業のクオリティ向上 ○学級経営力向上	ICT教育充実に向けた教員のスキル向上のための研究授業、研修の企画・運営をする。	B	B	B
		学級経営力向上に向けての凡事徹底推進のための取り組みをする。	A	A	
ICT教育推進	○目的の共有 ○ICT環境の整備	ICT教育を通して、生徒の主体的学びを推進する。	B	B	B
		生徒の円滑な授業や教育活動の環境を整える。	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
家庭との連携	○後援会役員・評議員との事務連絡・調整 ○保護者との連携強化 ○卒業生の保護者との支援体制の構築	後援会役員・評議員との意見交換を行い、信頼される学校づくりに反映させる。	B	A	B
		父親の集まり「信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club」を企画・運営し、父親と学校とのつながりや父親同士のネットワークを構築する。	B	B	
		信愛創立60周年の記念の年であるため、歴代後援会役員「百合の会」、卒業生やその保護者の支援を得て、学校の活性化を一層促進する。	B	C	
同窓会との連携	○同窓会役員との連携を強化	同窓会役員会との双方向の情報交換を密に行い、創立60周年を迎えるにあたっての同窓会の会報の発行やイベント開催等に協力する。	B	A	A
中学1年	○基本的な生活習慣と学習習慣の確立 ○自己表現とコミュニケーション能力の育成 ○深い学びに向かう姿勢の支援 ○保護者・各部署との連携	規則正しい生活リズムと家庭学習の定着を支援する。	B	B	B
		「アサカツ」の時間の活用を通して、バランスのよい「読む・書く・話す・聞く」の4技能の強化を行う。	B	B	
		「探究活動リリウム」を通して、主体的・継続的に学び続ける面白さを発見する。	B	A	
		学校・学年・クラスの状況や生徒の学校生活の様子を保護者に発信するために「学年だより」を効果的に発行する。	B	A	
中学2年	○基本的な生活習慣と家庭学習習慣の確立の深化 ○自己表現力とコミュニケーション能力の強化 ○I期の総まとめの意識 ○保護者との連携	自分の発言・行動・態度や整理状況などを客観的に捉え、周囲による影響を与えられているかどうか、振り返らせる。	A	A	B
		学習指導要領改訂や新課程入試を見据え、主体的に学び続けた上で自分の考えを論理的にまとめる的確に発表する場を設け、自己表現力を磨かせる。	B	A	
		II期から高校の学習内容に入ることを念頭に置き、国数英を中心に、中学内容の基礎をしっかりと定着させる大事な時期をどのように過ごすべきか、常に生徒に問いかける。	A	A	
		学校及び学年・クラスの状況や生徒の学校生活の様子を保護者に伝えるため、「学年だより」を毎月1回発行する。	A	A	
中学3年	○培ってきた生活・学習習慣をもとにした進路意識・社会貢献の姿勢の養成 ○社会・世界への視野拡張と生徒一人ひとりの能力開発 ○「共学一期生」としての自覚と誇りの高揚 ○保護者との連携	継続的に「ステラ手帳」「自学ノート」を有効活用し、生活・学習習慣を振り返る場とする。	A	A	A
		社会的視野を広げ、論理的思考と自己表現力の集大成として「修了論文・制作」を行う。	B	A	
		校内外のあらゆる場面で、男女を問わず清潔感ある服装や言葉遣い、所作を日々実践させ、信愛生としての品位ある立ち居振る舞いを心掛けさせる。	A	A	
高校1年	○生活習慣・学習習慣の強化・育成 ○適正な進路指導 ○社会性・言語コミュニケーション能力・メタ認知力の育成	「スタディサプリ」を活用した自学力・自己分析力の育成を支援し、ICT教育の活性化を図る。	B	A	B
		生徒の志望・適性を見極める面接指導及びポートフォリオ作成指導を行う。	A	A	
		「アサカツ」を活用し、読解力・表現力・公共心を育成する。	B	B	
高校2年	○自律した生活習慣の確立 ○自学の姿勢の確立 ○進路意識の高揚	学習時間を軸とした3点固定を徹底させ、生活スケジュール管理力を強化するためにステラ手帳を活用させ、担任や副担任で定期的に点検する。	B	B	B
		定期考査、実力テストの結果を自己分析し、自分の強みと弱みを明らかにすることで、具体的な学習方針を立てられるよう指導する。	B	B	
		新大学入試への準備のため探究活動リリウムやアサカツなどで主体性や協働性を養い、思考力・判断力を鍛えることを意識させる。	B	A	
高校3年	○受験生としての自覚と覚悟を持って、真摯に、強い心で進路獲得を目指す生徒の育成 ○信愛教育を礎に、隣人愛の実践者として生きる生徒の育成	学校生活（授業）を軸にした生活を崩さず、一人ひとりが自分の進路を獲得する過程を、あらゆる面から全力でサポートする。	A	A	A
		一人ひとりに与えられている恵みを見出し、生徒自身にも気づかせるよう働きかける。そのうえで「自己を他者に生かす生き方」をともに探り、実践を促す。	A	A	